



# 塩中だより

第34号  
令和3年3月11日(木)  
四日市市立塩浜中学校  
(文責) 学校長

## 第72回四日市市立塩浜中学校卒業式

8日(月)、第72回目になる卒業式を挙行了いたしました。

感染防止対策を行い、来賓には、学校づくり協力者会議委員の5名の方々をお招きし、厳粛な雰囲気の中、素晴らしい式になりました。

式辞では、NHKの「プロフェッショナル」～仕事の流儀～という番組から、今後の人生の糧になるような言葉を紹介させていただきました。

### 「あなたにとってのプロフェッショナルとは…」

- ・「自分がこれをやりたいと思うからこれをやってるんだという。やっぱり精神の方が大切なんですよ」
  - ・「自分のやりたいものをやるのではなくて、人が自分にやってほしいものをやるということ」
  - ・「最前線から逃げない人。風当たりは強いけど、前に進み続ける限り最前線にいられるかな」
  - ・「チームワーク、仲間を大切にする人、自分の力以上のものを出すには仲間やチームワークを大切にするのがプロフェッショナルだと思う」
  - ・「自分の目標に向かって、まっすぐ努力を惜しまず、常にベストを尽くせる人」
  - ・「何事にも全力を出し切る人、出せる人」 などなど…
- 一流の人たちも努力や向上心というのがキーワードになるのですね。

### 迷ったときに、思い出してほしい!

21名の卒業生たちは、笑顔とともにそれぞれの道へ元気に巣立っていきました。

式の終了後、教室では担任の先生が懐かしい写真を音楽とともに紹介し、卒業生の未来を祝福しました。

昇降口では、保護者の方々と一緒に写真を撮りました。どの卒業生も笑顔がいっぱいで、いい卒業式になりました。





## 卒業生の答辞の最後では…

『何もかもが、素敵な思い出としてすぎて行った3年間。

でも、正直な思いを口にすれば、予定通りの修学旅行に、広島に行きたかった。U S Jにも行って、みんなとの思い出をもっと作りたかった。お昼も席をくっつけて、楽しく話しながらご飯を食べたかった。マスクなしでみんなの顔を見たかった。もっとみんなで遊びに行きたかった。

誰しにも訪れたこの1年を、僕たちは中学3年生の年に経験しました。

だからこそ、この1年で、いつも一緒にいられることの大切さ、みんながいたからどんなことでも楽しめていたこと、そして当たり前の日々があることへの感謝を学びました。

みんながいたから、みんなに支えられたから、僕たちは中学校生活を素敵なものに変えることができました。

今日はみんな燦然と輝いています。

そして、これから、今までとはまったく違う道に進もうとしています。大きな不安や戸惑いから、たくさんつまづくこともあるでしょう。

しかし、たとえ亀のように歩みは遅くとも、蟻のように地道に、どんな場所でも自分の音を奏で、どんなときも前を向いて歩いていくことをここに誓います。

そして、今年だからわかった仲間、後輩、家族、先生方の深い愛情を忘れず、塩中生だったことに誇りをもって生きていきます。最後に、この言葉を残していきます。

今日まで本当に、ありがとうございました。みなさんのことはこれからも大好きです。』

**卒業生の皆さん、素晴らしい塩中を創り上げてくれてありがとう！**

これからは、在校生が塩中の中心となります。卒業生に負けないくらいの活躍を期待しています。